

2001417

絵本学会 NEWS No.12

発行：絵本学会

発行日：2001年4月17日

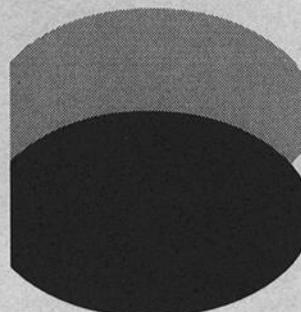
編集：絵本学会事務局・広報委員会

事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

武蔵野美術大学芸術文化学科今井研究室内

FAX: 042-342-5191

<http://ehongaku.musabi.ac.jp.>



『絵本フォーラム'98 PART2』報告

ドュシャン・カーライ特別講座報告

関西図書会員の集い報告

記者募集 etc. のお知らせ

インフォメーション・絵本関係展覧会・イベント

事務局からのお知らせ

絵本学会

絵本の国際シンポジウムに参加して

石井 光恵

昨年9月、英国ケンブリッジ大学ホマトン校で開催された絵本の国際シンポジウムについて、すでに「絵本学会NEWS」のNo.11(P7)で、藤本朝巳さんが「Reading Pictures: Art, Narrative and Childhood—国際シンポジウム参加報告ー」として報告していますが、今回はそのシンポジウムに日本から参加した絵本学会員の声を特集してお届けしたいと思います。

非常に盛り沢山のプログラムで、どのようにチョイスして参加していくかと、うれしい迷いの連続で日々を過ごしたことは、全員一致した感想のように思われます。これら集まった会員の声を見ても、チョイスの仕方は本当にさまざま、自分の選択が最善であったかどうか。今ごろになっても、「あれを見逃していて、惜しかったかなー」などと考えてしまう私にも困ったものです。しかし、絵本がこうした魅力的なシンポジウムの対象になるほど、世界が絵本を見つめていることを実感できたことはなによりの幸いであったと思います。絵本を介して、さまざまな国の人人が話し合える幸せ。日本においても、絵本学会が果たしていくであろう今後の役割とその可能性を強く思いました。そこでこのような特集を企画してみた訳です。

私の個人的なお目当ては、Satoshi KitamuraとAnthony Browneに会うことです。これはしっかりと期待に違わぬし遂げられて、本当に満足でした。それから、期待以上だったことは、新しい絵本に関する情報が入手できたことと、絵本そのものを手にとって購入できることでした。ケンブリッジの町の本屋さんめぐりも楽しい思い出です。日本でもインターネットの発達によって、以前より洋書が入手しやすくなりましたが、それでも手にとってという訳にはいきません。愚かな私は、スーツケースのほとんどを本に占領されて帰国しました。郵送という手を考えもしないで。あのときの腱鞘炎ふうな腕の痛みを思い出しては、今でもにんまりしてしまいます。

作家のプレゼンテーションはどれも刺激的でしたが、日本からの発表にも興味があり、正置友子さん、西村醇子さん、田中美保子さんの発表に参加しました。田中の発表にはフィリップ・ピアスさん（ケンブリッジ在住）も来していました。当然のことですが、日本人といえどもこれらの発表はすべて英語でなされました。発表を伺いながら、よく準備された皆さんの努力に、心の中で拍手を送り続けたことはいまでもありません。西村醇子さんはご自分の発表を「自分の発表に関しては聴衆が少なく、いさか拍子抜けした。でもお客様には楽しんでもらえたと自負している。」と語っておられますが、扱った作品が宮崎博和作のワニくんシリーズであったこともあります。西村さんのお人柄が伺えるユーモラスな発表で、聴衆の私はずいぶんと楽しませていただきました。どうしても言葉の壁を越えてとなると戻込みしがちになってしまいます（もちろん私自身もそうです）。しかし、そこを越えねば新しい地平もひらけてはいかないものだと、発表を伺いながら考えていました。

しかし、4日間ほんと会場に缶詰状態で（それだけ、プログラムがどれも目が離せないものであったということなのですが）、エスケープしてもう少しケンブリッジを楽しんでもよかったですなどと思ったりもしています。考えてみれば、エスケープも結構難しくて。とにかく、よく勉強に勉強を重ねた、4日間でした。ついでに、早口でまくしたてられる大学の講義を聞く学生のうんざりする気持ち、また、いくらためになてもあんまり急速に詰め込まれると食傷気味になる学生の気持ち、なども実感としてわかったのが私の個人的な収穫であったでしょうか。気をつけなければ。

私がいちばん面白く感じたのは、 「グロテスク・カーニバルスク」のセッション

今田 由香

Quentin Blake、Anthony Browne、Jan Ormerod、4日間のシンポジウムのあいだに私が言葉を交わすことができたアティ-

ストです。彼らは参加者の質問に気さくに答え、プレゼンテーションでは、絵本との出会いや制作プロセスについて話してくれました。加えて Victor Watoson、Jane Doonan、Maria Nikolajeva などの刺激的な講演がありました。参加者にとって問題は、どのプログラムも魅力的だったことです。プレゼンテーションと5つほどのセッションが同時に行われ、会場にはサイン会があったのです。私は毎夜ベッドに入りても翌日の予定に頭を悩ませていました。今回のシンポジウムのなかで、

私がいちばん面白く感じたのは、2日目の午前に行われた「グロテスク・カーニバル」についてのセッションでした。スウェーデンの大学院で学ぶ Catherine Buscall は、フランスの絵本作家 Claude Ponti の *Le Jour du mange-poussin*、について発表しました。この絵本には寸詰まりの体格で無邪気な顔つきをしたキャラクターが登場し、殺し合いを演じます。Ponti は血なまぐさい殺戮を赤や黄色を使いポップに、またスピード感あふれる描写で描いていますが、そのようすを Buscall はカーニバルと捉えました。また、ドイツの大学の Winfried Kaminski は Nikolaus Heidelbach という作家について述べ、彼の作品に描かれる黒い背景を、「言葉が語られるための場」と解釈しました。ネーデルラント国立図書館に勤務する Anne de Vries は、同国の絵本作家 Wim Hofman の『白雪姫』に、モチーフとモティフィームに付随するイメージが利用されていることを指摘しました。非日常的、演劇的な世界で遊ぶことは、絵本の大きな楽しみであることを再認識したセッションでした。



シンポジウムや研究発表、サイン会が行われた建物

な心地でした。「ピクチャー・ディス」という看板を見、ワイングラスを手渡されるまでは。じつはシンポジウムに先立ち、イギリスの絵本画家の原画を集めたミレニアム特別展が開かれていたのだ。シンポジウムには子どもが参加する余地がなかっただけに、子どもが忘れられていたわけではないと、ほっとしたのを覚えている。それにしても貸切になった夜の美術館でカナッペを食べながら絵を見て回るとは、王侯貴族なみのぜいたくさではないか。

さてシンポジウムの分科会に話をうつすと、自分の発表に関しては聴衆が少なく、いささか拍子抜けした。でもお客様には楽しんでもらえたと自負している。翌日の分科会で、赤いチャイナドレスの田中さんはポスターやヴィデオを使い、水あめの実物を見せてわれわれを傍観者から紙芝居の観客へと変身させた。その後のヴィクター・ワトソン氏による実演が観客の心をがっちりつかんだことは言うまでもない。別の日、メイン作品のイラストを論じたジェニー・ケンドリック（サリー大学ローハンブトンの院生）は、アカデミックでありながらユーモアもある発表を制限時間内にみごとに展開した。要はその発表のために各自がどれだけ準備をし、聴衆の心をひきつける工夫をしてきたか、にかかっているのである。じつは、それは画家や批評家の発表にもいえることであった。

ホマトンの四日間

西村 酒子

昨年のホマトンでのシンポジウムを振り返ると、スナップ写真のように、断片的な映像が頭に浮かんでくる。でもこの画像、カラーで動画だというだけで、音声がないのが玉に疵。それさえあれば、衝撃的なレポートをお届けできたかもしれないのだが。

改めて心に残ったことを振り返ると、意外にもフィッツウィリアム美術館の場面だった。

これはあらかじめプログラムに組み込まれていた。ところが、趣旨を理解しそこねていたわたしは、ミステリー・ツアーに参加したよう



ホマトン校の GREAT HALL 一堂に会して食事をしたホール

インターナショナルな会での少数派に目配りを

廣田 真智子

この大会で、かのアンソニー・ブラウンに会える！ということで、英語のできない私は不安ながらミーハー的に参加した。

スピーチの中で印象に残ったことといえばシュールな手法を駆使するブラウンや、絵本構成で完成度の高いハッテンスが意外にも子どもの日常の暮らしに关心を注いでいたことだった。また、アーサー・ヒューズはクラシックで正統派挿絵画家と思っていたのだが、彼女の現実描写の中にファンタジーの要素が大きな位置を持っていたことなども私にとっては面白いことであった。

だが、苦言もある。この大会が「インターナショナル・シンポジウム」と銘打ったからには、「インターナショナル」な視点がどのようなところに配慮されていたのか、また参加者側の視点もどこにあったのか。発信と交信は十分ではなかった。参加国は同じ英語圏でもアメ

リカはやはり少なかった。ロシア、東欧、アジアも少なかったのは、残念なことであった。

スピーチも扱われる資料の多くも当然イギリスのものが多くなつた。英国で開催し、共通語ということもあって、すべて英語で進行した。少数とはいって、英語が苦手な国の人たちも参加しているのだから、発表者の内容の骨子というかアブストラクトは必要ではなかつたろうか。このことは正置友子氏の「Toybooks」についての内容ある発表が Playing with Pictures というグループに入れられるという間違いをも起こす一因になったのではないだろうか。アブストラクトが印刷されていたならば、いくら本国でまだまだ知られていないという「Toybooks」でも、ふさわしいグループに入ったはずだ。少数派に目配りすることは、インターナショナルな会では必要なことではないだろうか。上記のことだけでなく、属する国や立場によって視点のずれをあらためて感じた場面もあった。

これらは貴重な経験と今ではなっている。

述べたブルガリアのMargarita Slavovaの研究発表があった。日本ではよく知られているヴァスネツォフの絵本も、イギリスでは新鮮だった様子で盛んに注目を集めていた。また、大学の図書館でロシア絵本に関する資料を探してもらつたが、インターネットを使っても、見つからなかつたのが残念である。イギリスでは英語圏以外の絵本の研究は、殆どなされていないのではないか。

ローハンプトン大学で博士号を得られたばかりの正置友子氏が行った、ヴィクトリア時代のトイブックスに関する研究発表は、概説部分の完成度はもちろんのこと、スライドを使った絵の解説時に氏が付け加えるコメント（脇役の効果等々）に聴衆から感心の声があがっていた。正置氏の発表に日本の絵本研究の質の高さが自然とあらわれていたとは思われるが、言葉の問題はあっても、もっと積極的に日本から発信する必要があると思われた。

日本とロシアの関係を研究している立場として、興味を引いたこと

丸尾 美保

緊張感と興奮の中に過ぎたホマトン・カレッジでのシンポジウムを今振り返ってみると、英語がうまく操れないもどかしさはあるものの、あこがれていたPat HutchinsやAnthony Browneと言葉を交わすことができたことをはじめとして、思い出は尽きない。Anthony Browneは大人気で、どの研究者の絵本理論の解説にも必ず彼の絵本が出てきたことなど、お知らせしたいことが多いが、ここでは、踏み出したばかりだが児童図書における日本とロシアの関係を研究している立場として、興味を引いたことを書いてみる。

主としてロシア絵本や異文化理解に関係しているプログラムを選んで出席したが、中でもHeather Minesの"The Tunnel" (Anthony Browneの絵本)を英語習熟段階によってグループ分けしたバングラデシュの移民の子どもたちに見せる授業の報告は、文化的背景によって絵本理解がいかに異なるかを具体的に示して、興味深かった。また、Penni Cottonの、イギリスの小学校で外国の絵本をその国の言葉のまま手渡すというプロジェクト Picture Books sans Frontieresについての報告は、異文化理解の上で期待したが、外国の範囲がECC内の国に限られるというイギリスの現状にがっかりした。ロシアに関しては、民衆版画ルボークの影響を



気さくに質問に答えるAnthony Browne



紙芝居を実演するVictor Watson

少年の夢とファイトを持ち続けた武井武雄

イルフ童画館館長 二木六徳

武井武雄をメインにすえたイルフ童画館（正式には日本童画美術館）がオーブンしてから、この四月でまる三年になります。武井が亡くなつてからは、ぼつぼつ二十年になります。

こんな経過の中で、イルフ童画館としての使命は武井作品の限りない魅力を、どういう形でどんなふうに発信していくべきか、毎日が試みの連続でした。

そんな時に「突然のお便り失礼します」といった書き出しの手紙が届くと、ほっと一息つくと同時に新たな視点を頂いたようでうれしくなります。

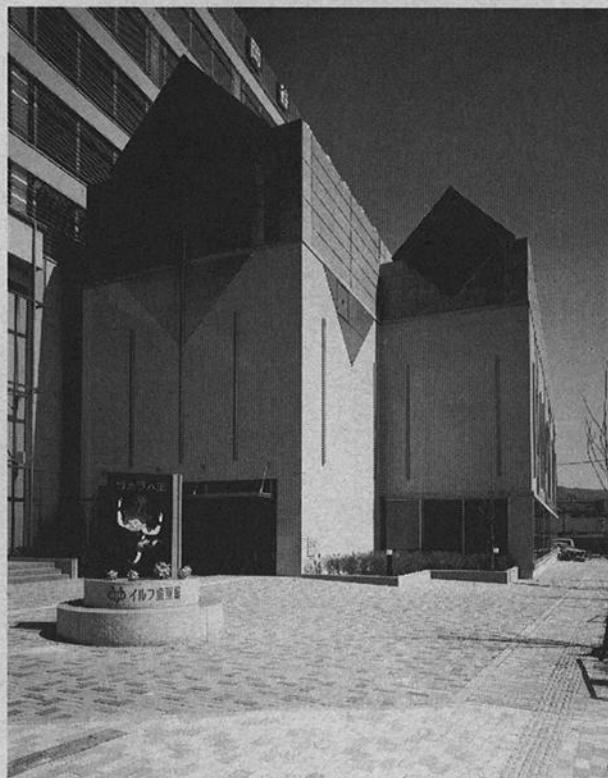
ごく最近では、愛知県に住む七十五歳の男性から、その中には染みをおびた茶色の表紙で、いかにも長い年月を経てきたと思われる小さな冊子が同封されていました。表紙には幼い字でアサヒシンブン、キリヌキ、マンガハツメイハッチャン、タケイタケオサクと書かれてありました。これは武井が一九三五年（昭和十年）に朝日新聞に連載



したコドモ漫画のことです。中を開きますと、ひとコマひとコマのすべてに水彩や色鉛筆を使ってたどたどしい彩色が施されていました。これに添えられた文面を紹介しますと、私の少年期（昭和十年頃）父がとっくれていた小学生新聞に武井武雄の漫画ハツメイハッチャンが掲載されていました。物のない時代でしたから発明とかロボットなどという言葉は少年の胸膨らむ夢のような言葉でした。昭和十五年には父の仕事の関係で東京に引越し、その翌年には大東亜戦争（第二次世界大戦）が始まりました。空襲が激しくなり、我が家も防空壕を作りました。私の大事なハツメイハッチャンは父（教師）の蔵書と一緒に防空壕にしました。中はものすごい湿気でしたからハツメイハッチャンは黴だらけになってしまいましたがあの激しかった東京大空襲の中でも無事残ることができました。

先日、偶然でしたがNHKの新日曜美術館で武井さんの刊本作品展の様子を見る機会に恵まれました。その時、とっさにですがハツメイハッチャンは武井さんの生れ故郷岡谷（イルフ童画館）に帰そうと思いました。

ここであえて全文を紹介しましたのは、最後の二行「ハツメイハッチャンは武井さんの生れ故郷岡谷（イルフ童画館）に帰そうと思いました。」がいかに感動的な文面であったかを知ってもらうためでした。この男性は、子どもの頃の夢をはぐくんでくれた大事なこの冊子を、今は生れ故郷岡谷にかえすことが最善だと思ったのですが、更に私が深く感動したのは帰そうという字でした。本人が意識して使ったかどうかは分かりませんが、かえすという字が、返すではなく帰すになっていたということです。つまりこの一語に、この男性が子どもの頃に受けた創造的な喜びがいかに大きかったかがしのばれるわけです。



イルフ童画館外観

これはたまたま漫画でしたが時に絵雑誌だったりイルフ・トイズ（イルフとは古いの反対語で新しいという意味の武井の造語）だったりしますが、いずれも添えられた手紙にはこの男性と同じような文面が託されていました。

このことは武井がものを制作する上で常に心掛けていた「作品は人的感応を伴うもの」でなければならないということの証しでもあったわけです。殊にライフワークであった童画制作においてその姿勢は顕著でした。自らが書いた「童画とは何か」の中で、それが「単にものを教える為の道具であったり、理解の面に役立たせる図解的」なものであれば「技術で事足りる」が「精神活動を持つもの、芸術の範囲にはいるもの、即ち人の感応を伴うもの」こそが童画の究極の目的であるといいました。ある心理学者は幼い子どもには芸術性とかその感動とかいうものは期待できない。せいぜい「犬が何匹いるとか蟻が幾ついるとか」という程度の事しかわからない」と言っていましたが、武井は「これは明らかに誤り」で、ただ「その感激を表現する言葉を知らなかっただけ」のこと、その証拠として「やがて三十歳にもなった時にあの画は大好きであって何度も何度も繰返して見て飽きなかった」とか「あの画の中の海の美しさが大人になつた今でも眼の中に浮かんでくる」という述懐談を聞くとやはり「心の迫力、エスプリ」のある画には子どもといえども深く感じていたということを見きわめながら制作していたことがわかります。

このことは武井の創作活動のすべてにあてはまります。目には常に根源的で普遍的なものを見据えながらその上で新たなものを創りだしていきます。その切り口は時に童画であったり版画であったり、つい先日まで展示していた一三九冊の刊本作品（本の芸術）であつたりしました。

九十歳近い生涯の中、とどまるところない創作エネルギーと類型を許さない斬新な造形、どこかおかしみを内包させながら現われる武井の宇宙はあまりに見事で時にこわくなることさえあります。

それは幼い日（三歳頃）落ちてゆく夕陽を見て「今日のお日様がなくなってしまう」といって激しく泣いた武井の感性を考えれば当然のことかと思います。

今年は、一昨年第二第三の武井を輩出すべく始めた日本童画大賞（ビエンナーレ）の二回目の年にあたります。どんな新人が登場してくれるか楽しみであります。

<インフォメーション>

●2001年2月16日（金）～4月25日（水）

絵本昔話原画展

●2001年4月27日（金）～5月30日（水）

山本容子展

【開館時間】午前10:00～午後6:00

（7,8,9月は7:00まで）

【休館日】毎週木曜日／12月31日、1月1日

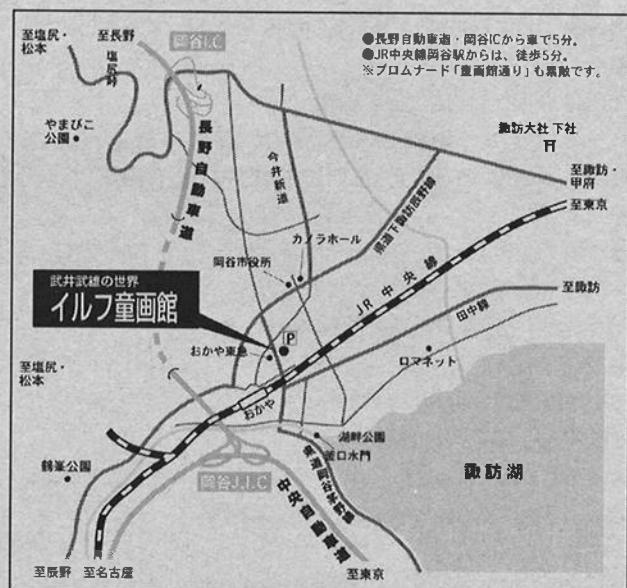
【入館料】

区分	個人	団体
一般	800円	600円
中・高校生	400円	300円
小学生	200円	150円

【交通案内】JR中央本線岡谷駅下車 徒歩5分

長野自動車道 岡谷ICから車で5分

（車でお越しの方は市営駐車場をご利用ください）



伝言板

●共同研究参加者募集のお知らせ

日本には、絵巻物から絵草紙など、現代絵本の萌芽があるにも関わらず、明治期から昭和初期に刊行された絵本について、著名な画家や作家によるもの以外は、今まであまり研究対象とされていませんでした。しかし、近年になり、インターネットによる公共機関所蔵図書の検索などから、当時、かなりの量の子ども絵本が刊行されていることが明らかになってきています。

これらを対象にして、絵本史・美術史・メディア史などの多角的な視点から、体系的に調査研究をしたいとの声が、発起人を中心起きてきました。そこで、以下の要項で、絵本学会会員を中心に、異分野の研究者を交えた共同研究への参加者募集の呼びかけをさせていただきます。

研究テーマ：子ども絵本の歴史研究－明治から昭和初期を中心に
研究対象：札幌市中央図書館所蔵図書約250冊（梅花女子大学図書館への借り入れ）など

研究期間：2001年度から3年間

研究日時：毎月第1金曜日、午後2時30分から4時30分まで

研究会場：梅花女子大学（大阪府茨木市宿久庄2-19-5）

募集人員：10名（参加希望者多数の場合は選考）

応募方法：往復はがきに、住所・氏名・電話およびFAX番号・年齢・所属・専門分野・共同研究に期待すること（30字程度）を明記の上、下記宛に送付

640-8135

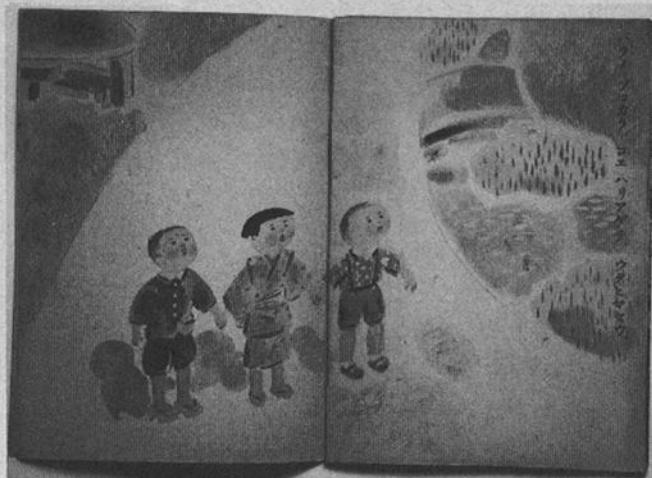
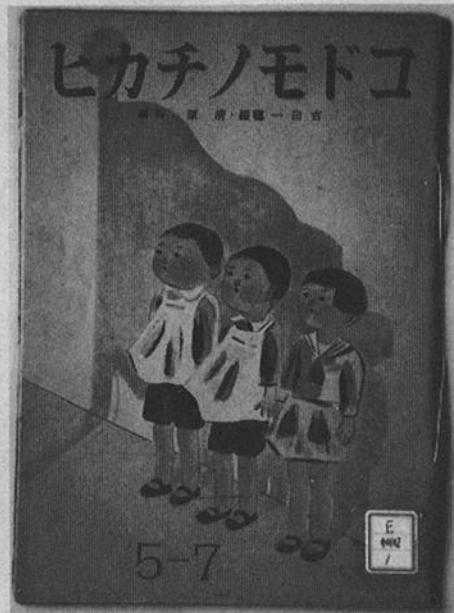
和歌山市鷹匠町1-4-14 大橋眞由美

(TEL・FAX 073-425-6934)

募集締め切り：5月10日必着

発起人：三宅興子、香曾我部秀幸、大橋眞由美

ただし、第1回会合を6月1日（金）、第2回を6月29日（金）とします。長期計画の共同研究のため、意欲的で最後まで参加可能な方の応募を期待しています。詳細をお知りになりたい方は、大橋眞由美までお問い合わせください。



参考資料

●軽井沢絵本の森美術館

「えほんのレシピ展－色、文字、印刷 それから？－」

第2展示館にて。

会期：2001年3月3日（土）～6月25日（月）

「絵本」はどんなふうにできているでしょうか。知っている絵本を思い出してください。形や大きさ、文字の感じはどうでしょう。色は何色使っていますか？

絵本はこのようなもの、すべてが合わさって一冊の本として成り立っています。

そして絵本作家や絵本制作に携わっている人達は、どうすればお話を効果的に伝えることができるか、読者が絵本を楽しんでくれるのかをいつも考え、絵本全体をコーディネートします。

それは少し料理にも似ています。

一品の料理を作るのには、いろいろな材料がそのメニューに合うように加工され、おいしくなるように調理されます。Recipe（レシピ）には「料理法」のほかに、「手法」や「秘訣」という意味もあります。絵本ができあがるまでにどんな手法が加えれ、おいしい絵本となっていくのかをご紹介します。

併設展：

「子どものイメージ＜小さな人びと＞から＜こども＞へー」

【開館】10:00～16:00

【休館日】火曜日・1月1日 ※1月2日は開館

【入館料】大人700円・中高生500円・小学生400円

（エルツおもちゃ博物館との共通券もあり）

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢 182-1

TEL：0267-48-3340 FAX：0267-48-2006

HomePage : <http://www.museen.org/ehon/>

●エルツおもちゃ博物館（軽井沢）

「華麗なるマイスターたちの饗宴－おもちゃ工房をたずねて－」

会期：2001年3月3日（土）～6月25日（月）

ドイツのは中世以来、脈々と続く職匠[マイスター]制と呼ばれる独自の制度があります。「マイスター（Meister）」とは、直訳すると「親方」または「一芸に秀でた人」となり、ある技能に長けた者をさす言葉です。その意味のとおり、修行を積み、試験に合格したものだけがマイスターを名乗ることができます。この制度は現在でも手工業種において残っており、大工、仕立て、製陶、理髪など、多職種に及んでいます。今展では現役の活躍中のおもちゃ職人のマイスターをご紹介し、彼らのインタビューを交えて、珠玉の作品を展示します。

【開館】10:00～16:00

【休館日】火曜日・1月1日 ※1月2日は開館

【入館料】大人400円・中高生300円・小学生200円

（軽井沢絵本の森美術館との共通券もあり）

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢 193-3

TEL : 0267-48-3340 FAX : 0267-48-2006

HomePage : <http://www.museen.org/erz/>

●いわむらかずお絵本の丘美術館

・「ミュージアムトーク・宮崎学 いわむらかずお」

4月28日（土）定員150名

要予約前売り券・大人1,200円、小学生1,000円

(28日の美術館入館料込)

※当日券は500円増（ただし、余裕のある場合のみ）

・「いわむらかずお 絵本づくり30年展」

1月1日（月）～年2月25日（日）

・「里のくらしと生きものたち3.クロウ～宮崎学写真展/いわむらかずお絵本原画展」

3月1日（木）～年6月3日（日）…人のくらしに寄り添いながらひそやかに暮らすクロウ。

彼らの暮らしぶりをとおし、里の自然の豊さ、その魅力を語りかけます。

【開館】10:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）

【休館日】月曜日（祝日開館、翌火曜日休館）

年末休館12/25～31 展示替えのための臨時休館あり

※元旦から開館

【入場料】大人900円 中高生700円

小学生500円 幼児300円

30名以上10%割引（要予約）

●斑尾高原絵本美術館

〈Miffy 45th ミッフィー誕生45周年記念 ワールドコレクション〉商品充実！

ミッフィー（うさこちゃん）がオランダの絵本作家ディック・ブルーナにより生み出されて、2000年は45周年にあたります。それを記念して「ワールドコレクション」と名付けられたグッズが作られています。どれも特別に販売される貴重な限定商品。来年のミッフィーのバースデイ（6月21日）まで、45周年イベントが続行されることが決定しました。それを記念して、当館では記念グッズを追加納入し、残り少ないミッフィー記念グッズ（世界で限定400点のリトグラフをはじめ、ポスター・食器・ネクタイ・スカーフなど）を販売します。

【開館】9:30～18:00

【休館日】火曜日 ※1月2日・3月20日は開館

【入場料】700円（飲物付）※幼児無料

〒389-2257 長野県飯山市斑尾高原八坊塚 11492-224

TEL & FAX : 0269-64-2807

●竹久夢二美術館

《竹久夢二 ブックデザインとその周辺》

～《本の美術》近代日本装幀のあゆみ～

2001.3.31～7.1

読書体験には、その書物の文学的内容もさることながら、ページを繰るときの紙の手触りや、インクの香り、印象的な表紙デザインや挿絵といった様々なく記憶>が付きまとっています。「装幀」=ブックデザインは、未だくかたち>をとっていない<内容>を具体化する作業です。装幀家は、読書と書物を結ぶ仲介者であり、その意味から我々の読書体験を豊かに演出する<書籍の演出家>と言えます。

日本の近代装幀史において、明治末期から関東大震災にいたる20年間は、文芸書が装幀の美しさを競い合った<装幀の黄金期>といわれます。そしてその生涯に約300点以上もの書籍装幀を手掛けた竹久夢二にとって<装幀の黄金期>はそのまま彼自身の装幀家としての活躍時期に符号します。

この展覧会では、《本の美術》をキーワードとして、雑誌や書籍、楽譜を舞台として展開された竹久夢二の装幀家としての仕事から、近代作家との交流によって生まれた作品や物語の登場人物を絵画化した作品など、広く「書籍」を巡る夢路の世界を探訪します。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日(G.W期間中は無休)

【入館料】一般 800円・大高生 700円・中小生 400円

(弥生美術館共通)

※立原道造記念館との三館共通券(一般:1100円)有

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2

TEL : 03-5689-0462 FAX : 03-3812-0699

TEL : 03-3812-0012 FAX : 03-3812-0699

●国際児童文化館

ローラ・インガルス・ワイルダーの世界 - アメリカ開拓時代の子供の絵本

2001.4.1～6.29

「大草原の小さな家」をはじめ、アメリカの開拓時代の子どもの本の紹介をします。

国際講演会

「イギリス絵本の現在 - 子ども読者と最近の作家たち -」

共 催：日本イギリス児童文学界会 後援：絵本学会

日 時：4月28日(土) 14:00～16:00

講 師：ピクター・ワトソン氏(元ケンブリッジ大学教授)

通訳：田中美保子氏(翻訳家)

場 所：当館講堂

【開館】9:30～17:00

【休館日】毎週水曜日(水曜日が祝日の場合はその翌日)

毎月月末日(月末日が水曜日の場合はその前日)

〒565-0826 吹田市千里万博公園 10-6

財団法人 大阪国際児童文学館

TEL : 06-6876-8800 FAX : 06-6876-8686

<http://www.iiclo.or.jp/>

e-mail info@iiclo.or.jp

●弥生美術館

清らかな乙女たち－青春の輝き

《藤井千秋展》～「少女の友」「女学生の友」で活躍した抒情画家～
2001.3.31～7.1

昭和20年代に「少女の友」でデビューし、昭和30年～40年代には「女学生の友」などジュニア雑誌で活躍した挿絵画家・藤井千秋。千秋の描く少女達は優しげで清楚なたづまいの中にも、その瞳はいきいきとした若さに輝き、明日への希望にあふれているのが魅力です。本展覧会では、挿絵原画、ふろく、グッズ類、未発表作品など、京都のアトリエから選りすぐった作品を一挙公開いたします。透明感のある色づかいと正確なデッサンで、“青春の輝き”を描き出した千秋の世界は、人々の暮しが豊かになっていった時代の息吹きを伝えてくれます。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日(祝日開館、翌火曜日休館) ※1/8・2/12は開館、1/9・2/13は休館

【入館料】一般 800円・大高生 700円・中小生 400円

(竹久夢二美術館共通)

※立原道造記念館との三館共通券(一般:1100円)有

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3

事務局からのお知らせ

●第4回絵本学会大会(2001年度)開催のご案内

第4回絵本学会大会は、2001年5月4日(金)・5日(土)の2日間
フェリス女学院大学(神奈川県横浜市)で開催されます。大会プログラムは、以下の通りです。

会場：フェリス女学院大学

〒245-0002 神奈川県横浜市泉区緑園4-5-3
フェリス女学院大学緑園校舎(文学部棟)

参加費：会員1000円 一般2000円

全体テーマ：絵本とおとな・絵本とこども

2001年5月4日(金) 大会1日目

13:00 1日目受付開始

13:30 開会式

14:00 基調講演

「絵本とおとな・絵本とこども」 西巻茅子(絵本作家)

15:30 シンポジウム 「世代を越える絵本—絵本のヤングアダルト現象」

シンポジスト：赤木かん子(児童文学研究者)

飯野和好(絵本作家)

松井英夫(ほるぷ出版社)

司会：佐々木宏子(鳴門教育大学)

17:30 絵本学会2001年度総会受付

18:00 絵本学会2001年度総会

19:00 交流会

飯野和好グループによる演奏会

20:30 交流会終了

2001年5月5日(土)

8:30 2日目受付開始

9:00 研究発表・作品発表

●研究発表プログラム

A室

9:00～9:20

・近代日本の0・1・2歳児の絵本の変遷 村川京子(大阪薫英女子短期大学)

9:20～9:40

・戦後の小学校低学年児童は、どのような絵本を読みついできたのか 米谷茂則(浦安市立富岡小学校)

9:40～10:00

・戦後初期の絵本 鳥越信(聖和大学)

(休憩・移動)

10:10～10:30

・「こどものせかい」について 柴村紀代(藤女子大学)

10:30～10:50

・金井信生堂刊行絵本『コドモノチカヒ』に見る「陰影」の表現 大橋眞由美

B室

9:00～9:20

・くいたずらはかせのかがくの本における「言葉と絵」瀧川光治(聖和大学)

−子ども自身が考えるきっかけとしての「言葉と絵」のつながりの分析−

9:20～9:40

・桃太郎絵本の視覚表現の変遷 齢田美鈴(神戸大学大学院)

～江戸期から明治期における門突破図を中心に～

9:40～10:00

・「食」から見た絵本考 鈴木穂波(梅花女子大学絵本研究会)(休憩・移動)

10:10～10:30

・表現としての見返し 中川素子(文教大学)

10:30～11:00

・英國古典絵本の研究

−ランドルフ・コールデコットとケイト・グリーナウェイの魅力− 藤本朝巳(フェリス女学院大学)

雨宮明子(フェリス女学院大学大学院生)

富田景子(フェリス女学院大学大学院生)

●作品発表(展示)

11:15～12:00

・「うちのポチ」、「ハナちゃん」 春日和香子(明治図書出版・絵本作家クラブ)

・「窓の向こうで」 すずきふみえ

・「つきがボウボウもえていたころ」「ひも」 小林由佳子(武蔵野美術大学研究室勤務)

12:00 研究発表終了

昼食

13:00 講演

「英國の絵本研究者と絵本研究方法」

講師：ピーター・ワトソン(前英國ケンブリッジ大学ホトマン校教授)

通訳：田中美保子(翻訳家)

14:45 ラウンドテーブル(分科会)

R1 絵本作家研究：赤羽末吉

コーディネーター：藤本朝巳(フェリス女学院大学)

話題提供者：赤羽研三(赤羽末吉三男)

上島史子(安曇野ちひろ美術館)

R2 絵本表現研究：“もの”としての絵本

コーディネーター：今井良朗(武蔵野美術大学)

話題提供者：杉浦範茂(グラフィックデザイナー)

松本猛(安曇野ちひろ美術館)

R3 絵本読者研究：赤ちゃんと絵本 日本版ブックスタートを事例として

コーディネーター：生田美秋(世田谷文学館)

話題提供者：佐藤いづみ(「子ども読書年」推進会議)

佐々木宏子（鳴門教育大学）

16:30 ラウンドテーブル(分科会)終了

13:00 ワークショップ ピバ！お化けしょん

担当：笠尾敦司（東京工芸大学）

石井光恵（日本女子大学）

16:30 ワークショップ終了

17:00 閉会式

問い合わせ先

第4回絵本学会大会事務局

フェリス女学院大学生涯学習課

〒245-0002 神奈川県横浜市泉区緑園4-5-3

TEL: 045-812-8390 担当：石田雅美

一般の方の参加は、当日会場にて受け付けます。

交通

相模鉄道いずみ野線：緑園都市駅下車徒歩約3分

横浜—緑園都市駅約22分 / 湘南台—緑園都市駅約17分

●運営委員会

1月28日 運営委員会 於：日本女子大学会議室

議題

- ・第4回絵本学会大会について
- ・第4回絵本学会大会の事務局について
- ・絵本学会のホームページについて
- ・絵本学会機関誌の発行について

編集をほぼ終え、4月に0号を発行することになった。

誌名を『BOOK END』とすること、表紙デザイン、内容などが確認された

- ・その他

3月3日 運営委員会 於：日本女子大学会議室

議題

- ・第4回絵本学会大会のプログラム、進行について
 - ・2001年度の活動について
 - ・絵本学会機関誌の発行について
- 次号以降の予算、出版社について意見を交換
- ・アニメーション学会、漫画学会との今後の連携について
 - ・その他

●訂正とお詫び

先日送付いたしました、第4回絵本学会大会のリーフレットの記述に誤りがありましたので、お詫びいたします。

基調講演の講師西牧茅子氏は、西巻茅子氏の誤りです、ご訂正ください。